



# 縄文学びのガイド

先生向け

北の縄文を学ぼう！  
ビデオクリップ①～縄文ってなに？～





# ビデオクリップ 解説（縄文時代の時期区分）

縄文時代と世界史の比較年表

年代	時代区分	日本の主なできごと	世界のできごと	北海道・北東北の縄文遺跡群	北海道・北東北の縄文土器の特徴			
紀元前 約13,000年	旧石器時代	・細石器文化が日本列島に広がる	・北京原人が活躍する ・ラスコー洞窟の壁画が描かれる					
約9,000年	草創期	・土器や弓矢の使用が始まり、定住化が進み、ムラが出現する	・トルコで最古の神殿が造られる（ギョベクリ・テペ）	大平山元遺跡	無文土器（約15,000年前） 日本最古級の土器片（大平山元遺跡）			
	早期	・気候の温暖化が進み、海面が上昇する（縄文海進） ・貝塚が出現する	・長江下流域で水稻耕作が始まる ・メソポタミアで農耕（ライムギ）が始まる	垣ノ島遺跡（～後期）	文様が押型文、貝殻文、縄文と変遷 尖底土器が多くなる 赤御堂式土器（長七谷地貝塚）			
約5,000年	縄文時代（時期区分）	・円筒土器文化の成立 ・集落の数が増え、地域を代表するような拠点集落が現れる ・漆の利用技術の発達	・中国文明の始まり ・メソポタミア文明の始まり	北黄金貝塚 三内丸山遺跡（～中期） 田小屋野貝塚（～中期） ニツ森貝塚（～中期） 入江貝塚（～後期） 是川石器時代遺跡（～晩期）	平底で多くの種類の縄文をつけた円筒下層式土器が作られる			
約3,000年				中期	・大規模な拠点集落が発達する ・ヒスイや黒曜石等の交易が盛んとなる	・インダス文明の始まり ・クフ王のピラミッド建設	大船遺跡 御所野遺跡	粘土紐で装飾された円筒上層式土器が盛んに作られる
約2,000年				後期	・中期にみられた大規模な拠点集落は減少し、集落の拡散化、分散化が進む ・環状列石が出現する	・ハムラビ法典ができる ・殷王朝の成立 ・ツタンカーメン王即位	キウス周堤墓群 高砂貝塚（～晩期） 小牧野遺跡 大湯環状列石 伊勢堂岱遺跡	土器の厚さが薄くなり線と縄文による模様が見られるようになる 入江式土器（入江貝塚）
約1,000年	晩期	・亀ヶ岡文化が栄える ・遮光器土偶や土面など祭祀の道具が多く作られ、装身具類も多様となる ・北部九州に稲作が伝来する	・春秋時代 ・戦国時代	大森勝山遺跡 亀ヶ岡石器時代遺跡	精緻に飾られた亀ヶ岡式土器が作られる 亀ヶ岡式土器（亀ヶ岡石器時代遺跡）			
約300年	弥生時代	・吉野ヶ里遺跡が栄える	・秦の中国統一 ・コロッセウム建設					

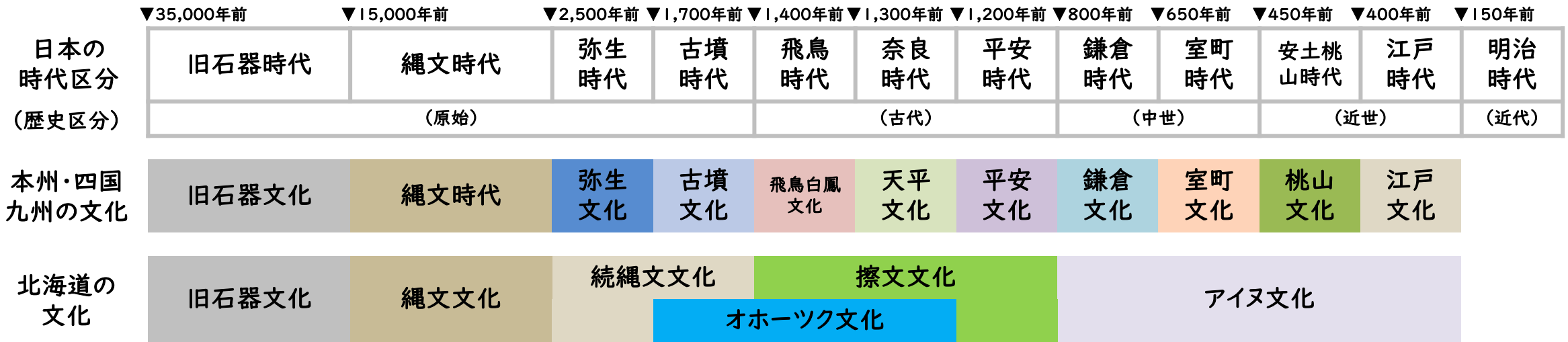
縄文文化は、土器の特徴により6つの時期に区分されます（左表）。

現在では縄文土器の特徴をもとにした時期区分が広く用いられています。文化の内容を根拠とした時期区分の必要性を指摘する研究者もいますが、さまざまな見解があり、議論が続けられています。

出典：縄文遺跡群世界遺産登録推進本部  
『北海道・北東北の縄文遺跡群』（平成28年）



# ビデオクリップ 解説（縄文時代の前後の時代）



出典：伊達市教育委員会

[https://www.city.date.hokkaido.jp/funkawan/detail\\_sp/00003169.html](https://www.city.date.hokkaido.jp/funkawan/detail_sp/00003169.html)

※一部改変

旧石器時代から縄文時代までは北海道から沖縄までほぼ同じような文化の内容だったと言えますが、北海道は、弥生時代以降になると「続縄文文化」や「擦文文化」、「アイヌ文化」のように本州とは異なる文化の名前で呼ばれます。

これは本州・四国・九州が水稻農業を行い「農耕社会」になったのに対して、北海道は縄文時代と同じ狩猟・漁労・採集を行う生活を続けていて、独自の文化をもっていたためです。





# ビデオクリップ 解説（縄文土器の意義）



道内最古の縄文土器（大正3遺跡、佐藤雅彦氏撮影）



縄文土器（大船遺跡）

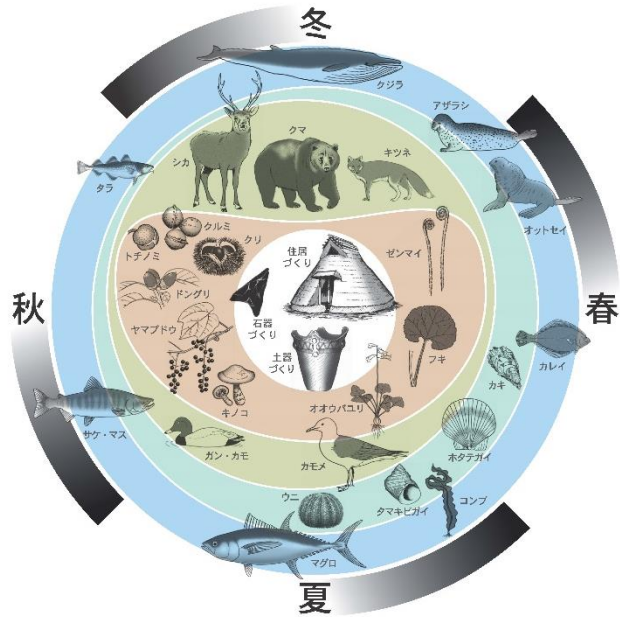
縄文文化の特徴は、縄文土器の使用と定住生活です。北海道で最も古い土器は帯広市の大正3遺跡から出土したもので、約1万4千年前の土器とわかっています。

縄文時代の最大の特徴は「定住生活」ですが、人類の長い歴史をみると獲物を追いながら「移動生活」をしていた期間のほうが圧倒的に長く、定住は人類の歴史にとって大きな転換点になりました。十分な食料が確保できたこと、その食料を土器によって加工・保存できるようになったことで定住生活が可能となりました。





# ビデオクリップ 解説（縄文人の食生活）



小林達雄博士の原案による「縄文カレンダー」



貯蔵穴（大船遺跡）



貝塚の断面（北黄金貝塚、佐藤雅彦氏撮影）

縄文時代の人々は、海、山、川といった周辺の自然を観察し、四季折々の恵みから巧みに食料を得ながら暮らしていました。また、フラスコ状土坑という木の実などの食料を保管する施設もつくっています。

太平洋側の内浦湾沿岸や汽水域では、貝塚が盛んに作られました。貝塚内に埋葬人骨や大量の土器・石器が含まれることから、貝塚は単なる生活廃棄物の集積場所ではなく、祭祀・儀礼の場としての機能も有していたと考えられます。



# ビデオクリップ 解説（縄文人の道具）



丁寧にならされた石の刃物  
(矢じりやナイフ)  
【垣ノ島遺跡（函館市）】

## ●矢じりやナイフ

矢じりは、弓矢の矢の先に取り付け、中・小型動物の狩猟に使っていることがわかっています。その他、矢じりと同様の技術で作った石器は、獲物の解体や皮剥に使うナイフやスクレーパーなどとしても使われました。



石錘  
【垣ノ島遺跡（函館市）】

## ●漁労具

動物の骨や角からモリ・ヤス・釣針などが製作されました。釣針は大きさも形もさまざまに魚種によって使い分けていたことがわかります。石錘（せきすい）は扁平な石の両端を打ち欠いて網の錘としたもので、網漁も行われていたことがわかります。



スプーン状骨角製品  
【北黄金貝塚（伊達市）】

## ●祭祀具

北黄金貝塚（伊達市）では、縄文時代前期の鯨骨や鹿角で作った骨刀や透かしの入ったスプーンなど他に類例がない遺物が貝塚から見つかっています。貝塚からは人の墓や動物儀礼の痕跡が確認されていることから、あらゆるものの命を送るための特別な儀式に使用されていたと考えられます。

# ワークシート

## 解説

ねん 年  
くみ 組  
なまえ 名前

きた じょうもん まな  
北の縄文を学ぼう!

じょうもん  
ビデオクリップ①～縄文ってなに?～

じょうもん じ たい いま なん ねん まえ はじ つづ  
①縄文時代は今から何年前に始まり、どのくらい続いたのだろう。

【答え】今から約1万5千年前から約1万年以上続いた。

じょうもん じ たい よ  
②どうして「縄文時代」と呼ばれているのだろう。

【答え】この時代には、土器の表面に縄目の模様のある「縄文土器」が使われたから。

【解説】縄文土器の特徴などから古い順に、草創期、早期、前期、中期、後期、晩期の6つの時期に細かく分けられていることにも言及できればよい。

じょうもん ど き  
③縄文土器についてわかったことをメモしよう。

【答え】鍋のように食べ物を煮て調理した。／食べ物などを保存する容器として使った。  
土器などの道具を使うことで、定住生活ができるようになった。

【解説】縄文土器の使用目的に限定することなく、縄文土器の使用により、食料調達の安定化と定住生活を可能としたことまで言及できるとよい。



# ワークシート


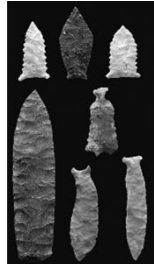

解説

きた じょうもん まな  
北の縄文を学ぼう!

じょうもん  
ビデオクリップ①～縄文ってなに?～

ねん くみ なまえ  
年 組 名前

じょうもん じん つか どうぐ なまえ どうぐ つか かんが  
④縄文人が使った道具の名前とその道具をどのように使ったか考えよう。

	どうぐ なまえ 道具の名前	つか かた 使い方
	縄文土器	【答え】調理や貯蔵に使った。  【解説】縄文土器の使用目的に限定することなく、縄文土器の使用により、食料調達の安定化と定住生活を可能としたことまで言及できるとよい。
	石の刃物（ナイフ・石鏃）	【答え】狩りをしたり、肉を切ったり皮をはいだりした。 【解説】石器は弓矢や槍の先につけて使用するとともに、落とし穴を作ってエゾシカなどを追いかけて仕留めていたといった具体的な狩猟の方法についても言及できるとよい。
	石皿とすり石	【答え】堅い木の実をすりつぶし食べやすくした。  【解説】クリやクルミ、トチノミなどの堅い木の実は、すり石や敲き石と石皿によって粉碎・製粉され、食べやすく加工された。